

特集

静かに舞い降りた幻想空間 「流灯まつり」

8月3日(土)・4日(日)、古利根川河畔(古利根橋・清地橋)にて「第26回古利根川流灯まつり」が開催されました。

日本一の大きさをほこる豊一畳にもなる大型灯籠約250基が古利根川に並ぶ様子はまるで地上に降りた天の川。

今年は、令和元年を記念してフィナーレを飾る花火が二夜連続で打ち上げられ、まつりに華を添えました。

一年に一度舞い降りる天の川は、訪れた方を幻想的な空間へと導き、良き夏夜の思い出として刻まれたことでしょう。

問合せ 商工観光課 魅力発信担当 内線305

「奥の細道紀行330年記念 古利根川流灯まつりキャラバン隊セレモニー」開催

江戸時代の俳人・松尾芭蕉が元禄2年に、深川から隅田川を船でのぼり、日光街道の宿場である千住宿から、東北へ旅立ち、330年を迎えました。杉戸町は、日光街道5番目の宿場町として、平成28年に開宿400年を迎え、330年前に東北へ旅立った松尾芭蕉も、この杉戸宿を経由したものとされます。

そこで、この節目を記念し、奥の細道紀行ゆかりの地、自治体33都市を巡るキャラバン隊を杉戸町に迎えました。

◆親書贈呈

奥の細道紀行330年記念事業実行委員会委員長の岐阜県大垣市長・小川様からの親書をPRキャラバン隊代表・荒川区観光振興課長・石崎様から贈呈されました。

◆決意表明文に古谷町長が署名

決意表明 松尾芭蕉の「奥の細道」は、日本文学を象徴するものとして広く世界へ紹介されています。奥の細道紀行330年を契機として、「芭蕉翁の業績をより一層顕彰するとともに、併せて地域の活性化に結びつく活動と郷土の歴史文化の活用を互いに連携し合い、広く内外に向けて展開しよう」とする奥の細道サミットの理念に基づき、奥の細道の魅力を積極的に発信していくことを宣誓します。

令和元年8月3日

埼玉県杉戸町長 古谷松雄



左:すぎびょん
右:奥の細道紀行330年PR大使・あら坊



今後、当町では、多くの国内外の皆様にも奥の細道の魅力を伝え、各地を訪れ、親しんでいただけるよう、ゆかりの都市と絆を深め、ともに進んでまいります。

祝

聖火リレーが2020年7月8日(水)、杉戸町に来る！



繋げ希望の光 聖火リレー
杉戸町通過決定 灯籠でPR！

流灯まつり会場に係留された約250基の大型灯籠の中に、今回特別に「東京2020オリンピック聖火リレー」、杉戸町通過決定PR灯籠が係留されました。

東京2020オリンピック競技大会開催まであと1年を切り、開催前には聖火リレーが行われます。そのオリンピック聖火リレーのルートとして、杉戸町が選ばれ、2020年7月8日(水)に聖火が通過します。

灯籠が繋ぐ光の帯のように、来夏、聖火で繋ぐ希望の光が杉戸町に訪れます。聖火リレーはどこを通過するのか？聖火ランナーとして誰が走るのか？詳細については順次明らかになりますが、町民の皆様とともにオリンピック・パラリンピックの開催とオリンピック聖火リレーの到来を楽しみたいと考えています。

社会教育課



▲東京2020オリンピック聖火リレーについてはこちらからアクセス

